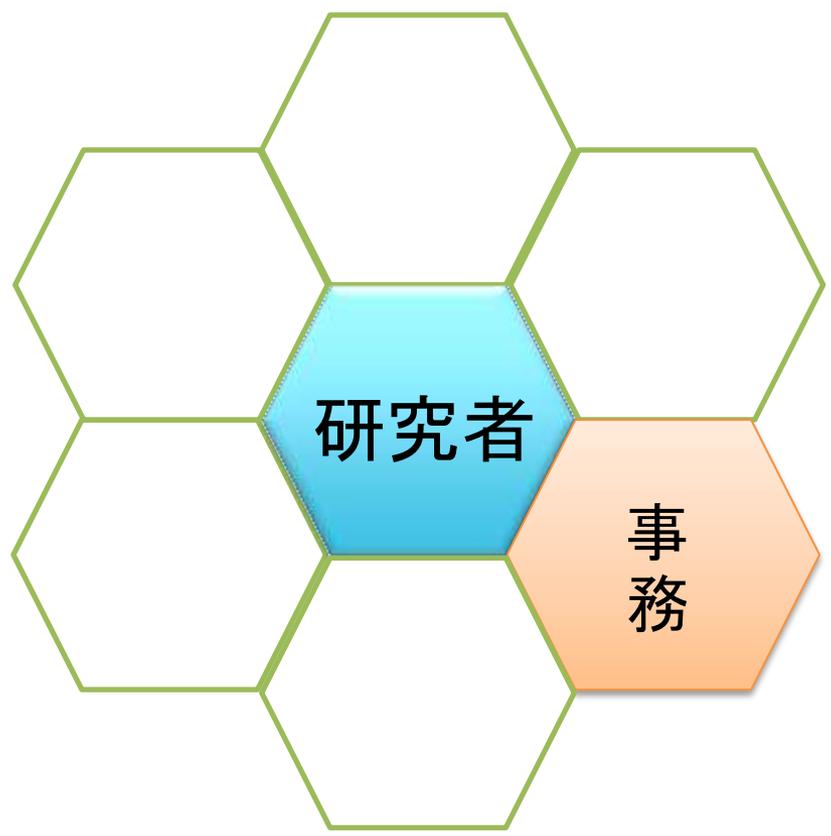


# 研究開発人材の日米比較

日本



米国、欧州  
シンガポールetc



# 規制上の課題

ヒト幹細胞研究指針ではストックの概念が無い

⇒ iPS細胞ストックが移植に使えるか担保されていない

ヒト幹細胞研究指針および生物由来原料基準  
では細胞採取の前に同意取得が必要

⇒ 既存の臍帯血がiPS細胞の原料として使用できない

同意書が国内外で統一されていない

⇒ 海外への供給、海外ストックの使用ができない

# 産業面での課題

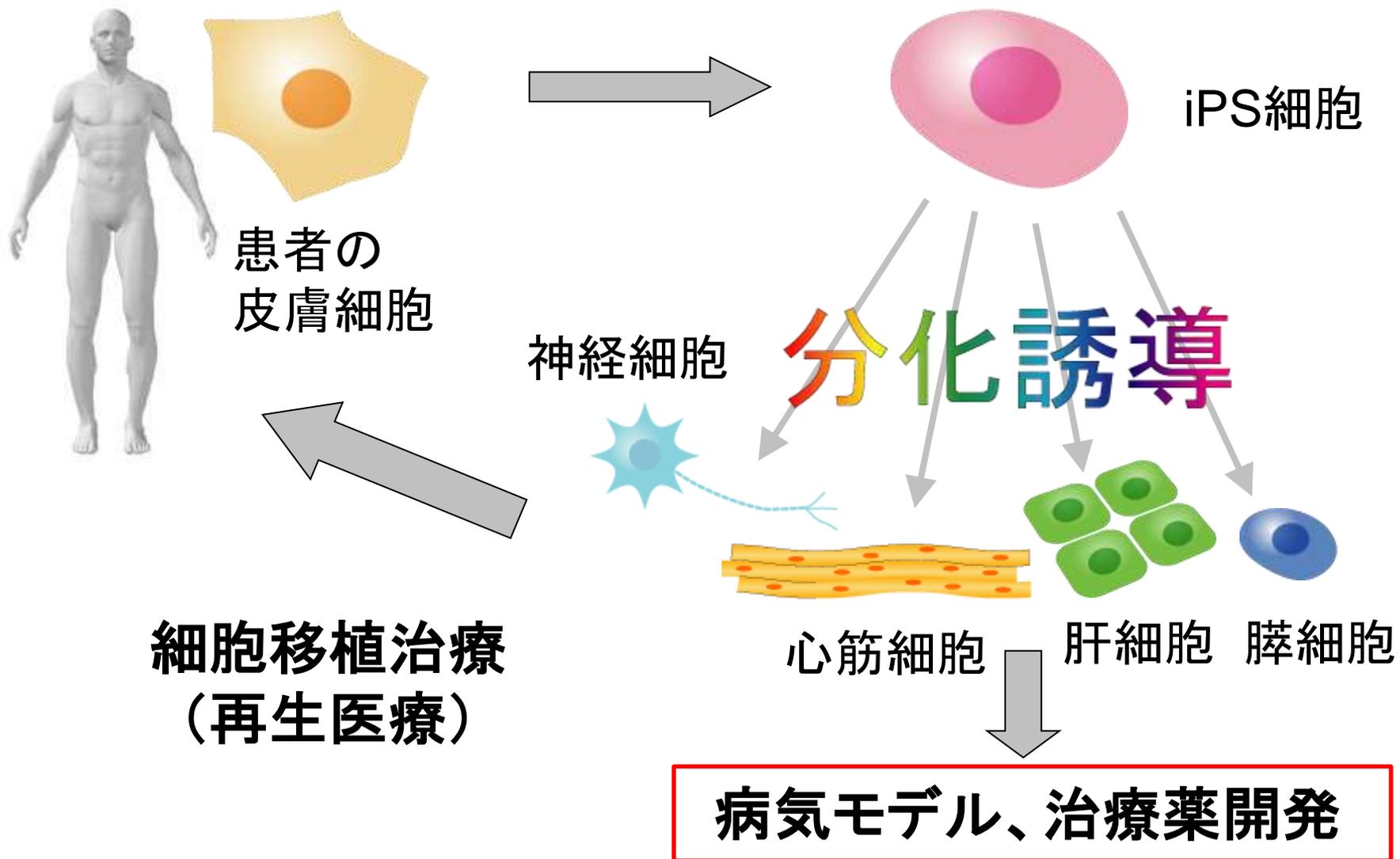
研究機器、試薬の大部分が外国製

⇒ 国産化が望まれる

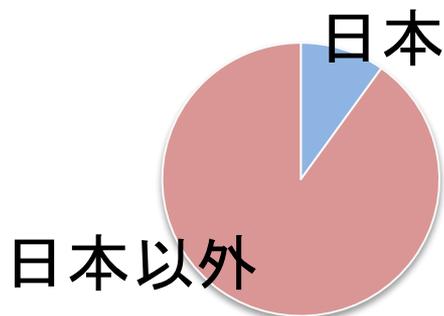
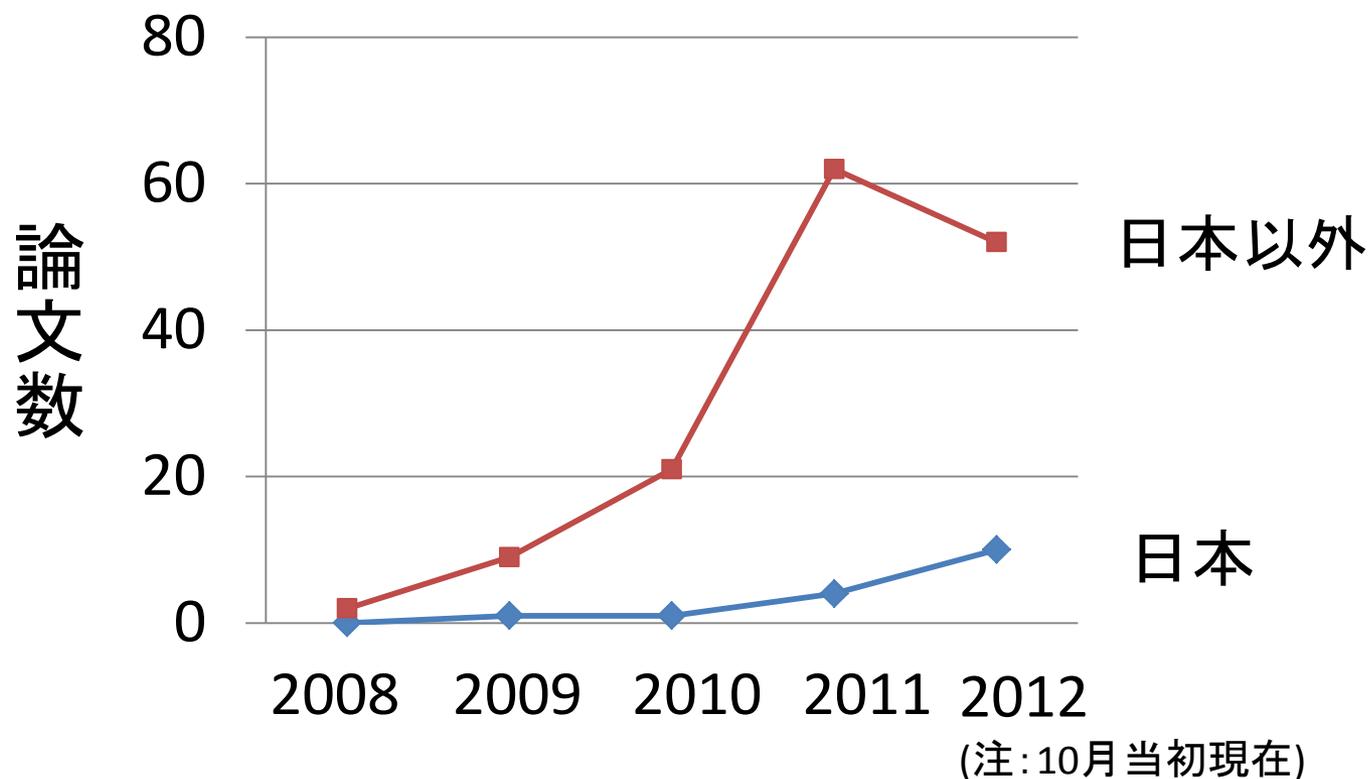
移植細胞（血小板など）の大量生産が必要

⇒ 産業界のご支援が必須

# iPS細胞：何ができるか？



# 疾患特異的iPS細胞の樹立を報告した論文数



現時点での日本の貢献度: 約10%  
(のべ16報/ 162報)

# 疾患モデル、創薬に関する課題

再生医療に比べて研究費支援が少ない

⇒ 各省庁が一体となったご支援を

製薬企業との連携も限定的

⇒ 連携を進める仕組み作りをお願いします



ご静聴有難うございました



今後とも、ご支援をよろしくお願い申し上げます